

83rd-84th

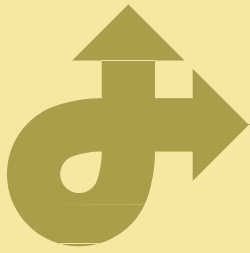
# 新制作

SHINSEISAKU

2020  
会報

新制作協会

vol.77





## 84回展に向けて 委員長 瀬辺佳子

新制作のホームページ、お手紙等で既に皆さまご承知と思いますが、2020の84回展を2021へ延期いたしました。決定いたしましたから、新型コロナウイルスは、なかなか終息に向かう気配もなく、この状態が日常化する気配を見せております。

皆さま制作は進んでいらっしゃいますか？

新制作を取り巻く全ての方々の安全を考えての決定ではありましたが、この1年半余りの時間を、展覧会充実のチャンスと捉えたいと思います。十分な制作時間は、違う角度から自分の作品を見つめ直すことを可能にしますし、やり直す時間もたっぷりありますから、新しいことに挑戦することもできます。数多く作品を作ることもできます。会員の力作とともに、応募してくださる方々の作品が溢れるようでしたら、会場の風景も素晴らしいものになるでしょう。

また、この間ウェブ上での展覧会なども企画しております。会員と応募者、また会場に見に来てくださる方々の関係も、この時間を使って、密にして行きたいと、思っております。ご意見、ご提案などぜひお寄せください心からお待ちしております。

84回展はもう始まっています。

皆さまの熱気が溢れる会場にいたしましょう！



- 2020年度委員  
(代表委員会)  
委員長 瀬辺佳子 (彫刻部)  
副委員長 金森宰司 (絵画部) 尾笠行男 (SD部)  
代表委員  
●絵画部  
小野仁良 榊山祐和 鈴木幸子 松木義三  
●彫刻部  
玉柴広芳 平田義之 松枝源太郎 渡辺尋志  
●SD部  
五十嵐通代 金子武志 白川隆一 吉田淳子  
(合同委員会)  
●会計委員会 ●図録委員会 (図録/広告)  
●美術館担当委員会  
●広報委員会 (広報・PR/会報/HP)  
●IT委員会 ●受賞作家展委員会  
●慶弔委員会 ●美術団体懇話会

2020年の第84回新制作展は新型コロナウイルス感染拡大の防止のため来年の2021年に延期となりました。しかし2020年度も絵画部のweb展覧会をはじめ3部、色々な企画をオンライン上で考えております。HP上でご確認くださいませ。

**第84回新制作展**  
**“The 84th Exhibition of Shinseisaku”**

84回新制作展は下記の日程を予定しております。

国立新美術館 (The National Art Center, Tokyo)  
2021年9月15日 (水) - 9月27日 (月)

## 各部より

### 絵画部 榊山祐和

2020年の絵画部はコロナ禍に負けないような企画を検討しています。もちろん現在の状況を鑑みれば、通常の展覧会に伴う行事企画を行うことはできません。作品の展示ができない。実際に絵を見ることができない。という状況はファインアートを志す私たちにとって決定的なハンデのように思われます。しかし、このような状況だからこそ、いつもと異なる視点での企画が考えられますし、それが展覧会そのものを見直し、新しい展示のあり方や出品者の皆さんと会員との、これまでにないコミュニケーションの形を発見するきっかけにもなるでしょう。

現在、絵画部行事企画委員会では「絵画部WEB展覧会」を検討しています。これはオンライン上において展覧会を行なう企画で、一年延期で発表の場を失うことになった出品者の皆さんに対して、新たな発表の場としてHP上の展覧会を開催するものです。詳細はまだ検討が必要ですが、従来の審査ではない工夫を考えています。またWEB展覧会期間中には会員によるレクチャーも検討されています。会員がテーマを設定し絵画や表現に対して日頃考えていることを出品者の皆さんに向けて語ろうという企画です。このように絵画部は芸術を真摯に語り合う場を会員、出品者と共に作り、新制作を盛り上げてゆきたいと考えています。

### 彫刻部 渡辺尋志

昨年までの自然災害は酷いものも多く感じられます。それでも少しずつ復興、復旧が進んでいる中、今回のCOVID19感染拡大はまた違った意味での災害なのだと思います。そして、このいつまで続くかわからない目に見えない危険へ新制作に関わる全ての人々を巻き込まないため「次年度への延期」という決定をしました。新作の出品を心待ちにしておられた出品者の皆様、会場で作品鑑賞を楽しみにされていた観覧者の方々、あるいは毎年会場でお手伝いいただいている業者様、苦渋の決断をご理解頂きたいとこの場をお借りして申し上げます。しかし、この状態をプラスととらえるために今まで経験したことのないことへ挑戦ということで様々なネット発信の方策を練っています。ただし、デジタルIT社会にアナログ的な仕事を得意としている彫刻家がついていけるか？がいちばんの問題なのです。何らかの形で皆さんに活動をお知らせしたいと思っておりますので新制作協会ホームページ、彫刻部Facebookにも掲載をしていきたいと思っておりますのでチェックをお願いいたします。来年2021年には第84回展として同じ時期同じ場所での開催です。素晴らしい作品展示をしましょう。

### スペースデザイン部 金子武志

スペースデザイン部の作品は実に多彩でユニークです。建築部から始まったこの部門が私たちの日常意識と少し近い位置にあるからかもしれません。出品作家のキャリアは多岐に渡り、既成のジャンルに囚われることなく独自のスペースデザインを創出しています。

丁寧な手仕事による工芸的表現。ダイナミックな構成の立体物。遊び心とユーモア溢れる家具的造形。色彩と形が織りなすテキスタイル。光と陰影が楽しいオブジェや装置。素材特性を活かした造形実験。自然環境と対話する野外造形。素材と技法が気になるミニチュア作品。大小様々な作品は作り手の意図に応じ、展示空間の環境に呼应しながら生き活きと表現されます。会場は庭園空間ながら、移動ごとに様々な景色が立ち上がり、空間を巡るたびに新鮮な印象が持続します。

この度の第84回新制作展の開催延期は制作側にも鑑賞側にも大きな出来事です。しかし創作とチャレンジに対する私達の思考と試行の時間は止りません。この状況を好機と捉え、新しい表現が集う対話空間をイメージし、次なる造形とデザインの展開を楽しみにしています。2021年9月、スペースデザイン部の会場でお会いしましょう。





## 第83回新制作展

### 審査陳列報告

絵画部 山口 都

公募団体を取り巻く環境が厳しいなか、一般出品者の増減が心配されましたが、実際には出品者総数385名（内訳はカテゴリーⅠは73名、Ⅱは197名、Ⅲは106名、データ9名）、搬入点数は827点で、昨年より13名の増加となりました。新制作は審査が厳しいと言われていますが、今回も従来通りの厳正で丁寧な審査を心がけました。また会員のいない地方からの出品者には、不利な点もあるのではとの指摘もあり、前年試みた「地方コール」を継続し、より公平な審査を目指しました。結果、入選者は294名、点数は311点となり、やはり厳選となりました。入選者のうち45名が初入選でしたが、いずれも充実したクオリティの高い作品でした。出品者の増加と初入選者の作品の質の高さは、今後に期待がもてる嬉しい結果でした。受賞会議で3名の新会員、6名の新作家賞、10名の絵画部賞、1名の損保ジャパン日本興亜美術館賞を選出しました。

陳列に関しては、広くゆったりとした空間に、新制作の特徴である一段がけを实践（2点入選を除く）、会員、一般出品者共々作品1点1点がより美しく見えるように心がけました。また、「時代を担ってきた作家たち その1」初期会員の内田武夫氏と赤穴宏氏の2名の企画展示も行いました。



彫刻部 長谷川喜男

第83回展の彫刻部の出品状況は、搬入者数54名・搬入点数77点でした。昨年度より搬入者数17名・搬入点数25点と大幅に減少しました。若い世代の出品者の減少と重ね、入選歴の多い出品者の中で今年は出品できなかったというケースもあり大幅な減少につながったと思われる。

一般審査は、入選をA・選外をCとして出席会員の過半数の同意で入選・選外を決定しました。厳正な審査の結果、入選者数53名（初入選者2名）・入選点数57点（2点入選4名）が決まりました。初入選の2名はともに外国出身者で新鮮な作品が入選しました。

今年の審査の傾向としては、従来からの高い質の彫刻性を求めると同時に一人でも多くの作家を新制作で育てたいという観点もみえる審査となりました。また、彫刻部においては、Cとなった作品に対して発議者1名と賛同者2名によって再審査をするC制度があります。2点の作品が対象となり、彫刻性についての論議もされ、入落が決まりました。

受賞会議で会員推挙1名、新作家賞7名（内、来年度無鑑査のシード作家2名）が選ばれました。出品数が少ない中ではありますが、受賞作品は質の高い作品が選ばれました。

陳列については、屋内・野外ともに具象、抽象、素材、大きさ、色などの変化もバランスよく配置され、個々の作品が生きる展示空間となり観やすい展示となりました。

私たち会員は、創立会員や先輩会員が日本の現代彫刻を切り拓かれた精神を引き継ぎ、新制作の彫刻の魅力を発信することで「新制作のあの空間で一緒に展示したい、新制作で学んでいきたい」という作家が増えると確信します。会員も一般出品者も一年間の勉強の成果を発表する場として、一年一年、新制作展を大切にしていきたいものです。

スペースデザイン部 中野 威

2019年は雨の降る日が多く、気持ちが多少重かったであろうにも拘らず、中々の力作が集まりました。昨年より全体で5名12作品の増加になり、一般作品45点、ミニアチュール作品60点、計95名105点でした。

審査日は朝から例年通りの手順で各部門審査が進み、結果、一般作品 壁、床、宙吊り、暗室展示等、合わせて30名、ミニアチュール20名の計48名（両部門出品者を含む）52作品が入選、選外53作品でした。午後から選外作品1点毎に観想し、作者へ引き取り時に観想内容を伝える事に。

一方、入選作品は多岐に渡り新たな基準を模索する時代の兆候が、多少現れ始めたと感じられる様相となりました。増々この兆候は、続く傾向と成ることでしょう。応募者と共に会員も新たな表現作品に接し育ち、その受け皿になればいいのではないのでしょうか。

またミニアチュール作品は応募数が多いせいか良い意味で入選作品の質が洗練され成熟度が増し始めている様に感じられます。素朴で皮肉でウイットに富んだ作品の軽妙な試みも期待したいものです。

最後に作品陳列です。上記入選作品に会員作品を加え、新作家賞、新会員の表記も加わり華やかでバランスのとれた素敵な空間となりました。近年にないものとなり、今後も皆さんの力作を期待し、試みがある会場でそれぞれに豊さと勇氣があるといいですね。



### 新会員紹介

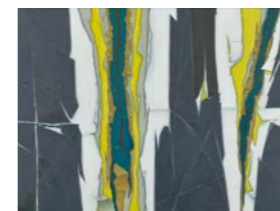
絵画部



山根康代

新制作に出すと決めたのは素敵な作品が多くレベルの高い、誰も知らないところに身を置くことで私自身が成長できる場であると感じ出品を決めました。先生方から毎年アドバイス頂き一步一步歩ませて頂け、今私にとっての本当の意味でスタート地点に立たせて頂いております。絵を描く為に生きる、心の奥底にあるものをもっと明確に表現してゆきたい、気持ち新たに日々精進致します。

大阪府生まれ  
2006年 関西新作家賞（'08）2009年関西新制作賞  
2009年 全関西展 第1席、第2席（'08、'10）、  
読売新聞大阪本社賞（'11）  
76回新制作展 新作家賞 78回新制作展 新作家賞



渡辺有葵

新制作は自分の作品、また制作のモチベーションなど育てていただいている場所です。創立会員から受け継がれている新制作の絵画に対する厳しく純粋な魂に魅了されて制作に励んできました。この度、新会員に推挙していただき本当に感謝しております。魅力のある作品がつかれるように、日々制作に精進して参ります。

1981年 静岡県生まれ。  
2005年 第69回新制作展 初入選  
2006年 日本大学大学院造形芸術専攻博士前期課程修了  
第79回、第82回新制作展 新作家賞受賞



彫刻部

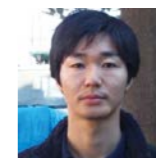


和田和子

会員にご推挙頂きありがとうございます。これまで植物園等で見えた風景を画面上に独自の世界観で描いてみたいと思いながら制作して参りました。

この度新たな出発点に立ち、これまでお世話になりました先生方に感謝しつつ今後も緊張感をもって制作活動に励んでいきたいと思っております。

東京都生まれ  
2015年 損保ジャパン日本興亜美術賞展 FACE展2015優秀賞受賞  
第80回記念新制作展 第81回新制作展 新作家賞受賞



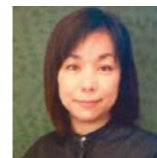
原田理糸

新制作展へ出品するたびに周りの作品から多くの刺激を受け、自らの作品の客観的事実に直面しながら、そこで作品を通して話す作家の皆さんの言葉に沢山の事を気付かされてきました。今後もこれまでの感謝の気持ちを持ちつつ制作し発表していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

1985年 神奈川県生まれ  
2009年 第73回新制作展 初入選  
2010年 東海大学大学院芸術学研究科 修了  
第78回、82回新制作展 新作家賞受賞



スペースデザイン部



五十嵐史帆

会員の方々はもとより、多くの人に支えられて新制作展へ挑戦し続け成長することができました。心より感謝申し上げます。今後は、少しでも恩返しできるよう努めていきたいと思っております。そして、どこまでも挑戦者として、自分らしいかたちを追い求めることを忘れぬよう精進していきたいと思っております。

東京生まれ、新潟在住。  
2004年 第68回新制作展 初入選  
2005年 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 修了  
第77回、第82回新制作展 新作家賞受賞



神 芳子

バスケットリーの造形から見えるものが見たく長く続けております。試行錯誤での制作は厳しい時間ではありましたが出品ごとにスペースデザイン部会員の皆様の身に余る励まし、ご指導がありました。心より感謝申し上げます。

「光陰矢のごとし」充実した8年でありました。これからも精進して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

1984年 バスケットリー AMIKUMI 主宰  
2012年 新制作展初入選 新作家賞（以降毎年出品）  
81回新制作展 新作家賞





## 第83回新制作受賞作家展

新制作展では、優秀作品に協会賞、新作家賞を授与し、受賞者には、当協会各部主催の受賞作家展を企画しています。第83回展の新制作受賞者（協会賞・新作家賞）の展覧会が開催されました。

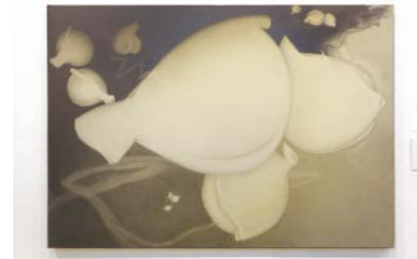
### 絵画部

シロタ画廊

2020年2月3日（月）～8日（土）

下倉剛史 須田明雄 藤田憲一  
丸尾宏一 吉成文男 渡邊啓子

1. 吉成文男 《パラダイス16》 72.8 × 103
2. 渡邊啓子 《響》 130.3 × 162
3. 丸尾宏一 《Rurkei》 112 × 162
4. 須田明雄 《無題》 80.3 × 116.7
5. 下倉剛史 《まぼろし》 130.3 × 162
6. 藤田憲一 《時空間旅行機（回想）》 162 × 130



1



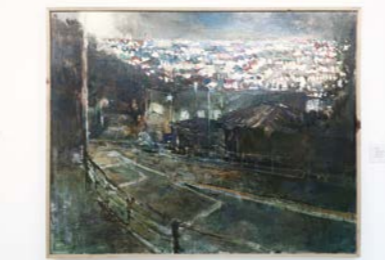
2



3



4



5



6



### 賞牌について

木彫にこだわりました。樟の木材で一点一点の制作です。本体の技法は鉋彫りです。竹を割る鉋で叩きながら形の核に向かって彫り出す作業です。木彫は通常ノミ、刀を使用し仕上げますが、この方法で仕上げると多少工芸的な面が出て来ます。形のおもしろさを出すために敢えて鉋彫りにしました。針千本の針は竹串を使用しています。本体の形は、それぞれ多少異なった表情があり、針千本の形のおもしろさも加え、楽しく制作できました。

表面には洋箔を張り、着彩を施しています。梱包した袋はスペース・デザインの佐伯和子さんの制作で、ご協力お願いしました。書面にて感謝申し上げます。

彫刻部 石松豊秋

### 彫刻部

ギャラリーせいほう

2020年2月3日（月）～14日（金）

井上直 上田さや子 笠井利彦 河合睦子

小嶋満明 榎あさ美 牧野未央

7. 上田さや子 《沈黙の声》 テラコッタ
8. 榎あさ美 《リスザル》 紙、木
9. 笠井利彦 《前奏曲「曙」》 石膏
10. 井上直 《直の曲線》 花崗岩
11. 牧野未央 《Agalico M》 石膏
12. 小嶋満明 《立体I》 FRP
13. 河合睦子 《力田希りきいき(エイ!)》 石膏



7



8



9



10



11



12



13

### スペースデザイン部

タチカワブラインド銀座スペース オッテ

2020年2月4日（火）～9日（日）

大木敦子 腰越祐貴

田村純也 山碕明史



14



15

14. 腰越祐貴 《あゆみ》（部分）  
W170 × D50 × H46cm 陶器
15. 田村純也 《mosir》  
W34 × D23 × H7cm 石
16. 山碕明史 《空気の隙間 2020》  
W180 × D90 × H130cm 木
17. 大木敦子 《aging》  
W180 × D5 × H200cm ウール・麻



16



17

## 会員個展開催報告

### 「没後10年 荻太郎展」

2019年12月4日（水）～12月22日（日）

会場：岡崎市美術館

絵画部物故会員 荻太郎氏（1915－2009）の没後10年を記念して、岡崎市美術館にて回顧展が開催されました。



### 「澄川喜一 そりとむくり」

2020年2月15日（土）～5月24日（日）

会場：横浜美術館

彫刻部会員 澄川喜一氏の首都圏公立美術館での初の大規模個展が開催されました。



## 編集後記

昨年度より進めてきました会報改革は、主に来場者対象の広報冊子（新制作手帖）と、新制作関係者対象の会報誌として2段階方式の広報誌に生まれ変わりました。より新制作の魅力を多くの方々に知っていただけるよう内容の充実を力を入れてまいりたいと思っております。

今号に原稿をお寄せ下さった方、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。（小島）

## 地方展開催報告

### 「第83回新制作展 神戸展」

2019年10月30日（水）～11月6日（水）

会場：原田の森ギャラリー

兵庫県立美術館王子分館

絵画部は巡回作品71点と関西協友・一般作品74点の計145点、スペースデザイン部は11点の展示

### 「第83回新制作展 名古屋展」

2019年12月18日（水）～12月22日（日）

会場：愛知県美術館ギャラリー 8階

## チャリティー報告

### 2019年 第83回新制作展

#### チャリティーのご報告と御礼

絵画部：公益財団法人日本博物館協会「被災博物館復興支援事業」支援募金へ515,000円

彫刻部：日本赤十字社「平成30年7月豪雨災害義援金」へ467,000円

SD部：公益財団法人日本博物館協会「被災博物館復興支援事業」支援募金へ123,000円

## 訃報（2020年5月現在）

新制作協会発展に尽力されました故人を偲び、心よりご冥福お祈り申し上げます。

- 中村徳守氏 絵画部会員  
2018年10月9日 逝去（享年92歳）
- 張替真宏氏 絵画部会員  
2018年11月19日 逝去（享年85歳）
- 石井礼子氏 絵画部会員  
2019年11月24日 逝去（享年45歳）
- 石阪春生氏 絵画部会員  
2019年12月24日 逝去（享年90歳）
- 薄久保友司氏  
2020年4月29日 逝去（享年78歳）
- 大田雅代氏 彫刻部会員  
2019年1月4日 逝去（享年67歳）
- 平山隆也氏 彫刻部会員  
2020年2月8日 逝去（享年80歳）

## 表紙作品

糸田玲子

《水の焰 Eddy Water Fire》

新制作協会推奨作品

1972年

F100×2枚組

技法：WWCP

今、私は50数年前の京都にいる（頭の中で）正月2日の京都は人気も少なくひっそりとしていたが、夫・糸田芳雄と私は当時船乗りだった兄が神戸に住んでいて、「今、船降りて正月中家にいるから遊びにこい。」という誘いに乗って神戸を根城に京都の史跡廻りをしている。相国寺、龍安寺など名園、名画を鑑賞し、京都博物館の寒々とした展示物の前で動けなくなっていた。

小さな可愛い土偶がそこにいた。土偶は語りかける「私からヒントを貰いなさい」と……。おそらく名もなく名声も求めない人が無心に造ったものだろう。私は只ただそれを見つめていた。

まだ、自分の絵と定まらない今の私の頭に様々な妄想がめまぐるしく廻って段々と描きたいものが形を成してくる。あれ以来、私の原点は変わらず、絵は変わっても心は変わらずにいると思う。

現在の私は、突然動かなくなった体をもて余り乍らなんとかこれを書いている。「絵が描きたい!!」と心で叫び乍ら……。

2020年1月 糸田玲子



新制作協会事務所

〒160-0022

東京都新宿区新宿6丁目28番10号 大阪屋ビル202号

TEL：03-6233-7008 FAX：03-6233-7009

Mail: webmaster@shinseisaku.net

www.shinseisaku.net

発行 新制作協会

発行日 2020年6月

監修 瀬辺柱子

企画・編集・制作 広報委員会広報誌編集委員

小島隆三、山口都、本田悦久、藤森民雄、

二井進、雨山智子

デザイン SHIMA ART&DESIGN STUDIO